明るい色 akarui iro

岡田清和/片桐翠/馬場まり子

2019 11/2(土)-12/22(日) 9:00-21:00

休館日:月曜(11/4は開館)、11/5、11/26

会場:砂丘館ギャラリー(蔵)、ほか各室

主催:砂丘館/共催:はり絵作家岡田清和さんを支援する会

Gallery talk 1

ギャラリートークゲスト

馬場まり子

聞き手:大倉宏(砂丘館館長)

会場:NSG美術館

11/17(日)14:00〜15:00

参加無料(申込不要・直接会場へ)

(ただし「馬場まり子展」の入場券が必要)

主催:NSG美術館

Gallery talk 2

ギャラリートークゲスト

片桐翠

12/7(土)14:00〜15:00

参加料:500円(申込不要・直接会場へ)

Gallery talk 3

はり絵実演とギャラリートークゲスト

岡田清和・にしき園生活支援員

12/15(日)14:00〜15:00

参加料:500円(申込不要・直接会場へ)

2・3いずれも

聞き手:大倉宏(砂丘館館長)

会場・主催:砂丘館

変わらない場所

大倉 宏

馬場まり子の近作(2019年の絵)を見て、この、描かれたいろいろな人たちは、今を生きている、と同時に今ならざる時間をも生きていると感じた。彼らがまとう色、とりまく白い空間がどこか蛍光色のように発光して見えるのは、その異なる時間の方角からさしているように見える。

一人でいるのは　賑やかだ
賑やかな賑やかな　森だよ
夢がぱちぱち　はぜてくる
よからぬ思いも　湧いてくる
エーデルワイスも　毒の茸も
(茨木のり子「一人は賑やか」より)

そう、まるで、エーデルワイスと毒の茸が一緒に咲いている(ような)森から、それはさしてくる。

同じ、ではないが、どこか同種、あるいは近縁種に見えるような発光が、岡田清和の貼り絵や、片桐翠の絵にもある。「明るい絵」の明るいは、彼らの使う色の明度や彩度の高さだけを示すのではなく、その不思議な発光源が、彼らの色を実際の色以上に明るく感じさせる、それを言う。

友川かずきが2010年に作った「一人ぼっちは絵描きになる」で歌われる日本の画家——村山槐多、長谷川利行、中村彝、関根正二の色は美しいが、どこか暗く、黒く、重い。岡田清和の貼り絵は利行と同時代(昭和前期)に注目された山下清のそれを連想させるけれど、発色が、確実に違っている。ずっとおだやかだ。それは個性の違いであるのと同じくらい、二人が生きる時代の差でもあるような気がする。

槐多や利行の時代に描くこと、「一人ぼっち」で描く孤独は、おそらくもっと壮絶だった。そうならざるを得ない時代でもあった。山下清たち施設での生活者を取り巻く状況や、彼らを見つめる周囲の目も違っていた。

馬場も、片桐も、岡田も、槐多や利行や山下に比べるなら、もっと周囲の理解に恵まれている。

それは三人の個人的環境であると同時に、やはり、否応なしに時代も(少なからず)変わったのだ。

片桐の描く母、父、叔父、友人たちは彼女に、彼女の絵に、絵を描くことに柔らかい目を注いでいる。そのことを描き手も感じている。それでも、絵を描くことがどうしようもなく「一人ぼっち」であることは変わらない。そこから、彼女の色の不思議な(奇妙な、とも見える)、低地状の起伏がのびてゆく。

三人の絵の明るさは、そんな、黒さや重さをおそらく必要としなくなった、それでも変わらない、絵を描き、生き、「一人でいること」「一人ぼっち」の、現在位置を指しているように見える。　(砂丘館館長)

岡田清和(おかだ きよかず)◆1968年新井市生まれ。聴覚障がい、知的障がいを持つ。84年新潟県にしき学園(現在はにしき園、2010年より社会福祉法人上越福祉会に運営移管)に入所。88年夏休みから貼り絵を始める。96年「久比岐野・雪国からのメッセージ展」出品作が平山征夫新潟県知事に評価され、絵が県知事室に飾られる。98年画家原田泰治がにしき園を訪れ交流が始まる。99年二人を紹介するNHKのドキュメンタリー番組放映。2002年新潟県障害者芸術文化祭知事賞受賞。2000年・11年諏訪市原田泰治美術館、16年NST本社夢メディア、17年南魚沼市池田記念美術館で個展開催。02・14年作品集『彩りの詩』、19年『岡田清和物語』刊行。

片桐翠(かたぎり みどり)◆1978年新潟市生まれ。99年青山学院女子短期大学英文科卒業。渡英。ウェストミンスター大学(ロンドン)で映画とイラストレーションを学ぶ。2006年創形美術学校造形科卒業。第1回パリ賞受賞。副賞でシテ・インターナショナル・デ・ザール(パリ)に8か月滞在。07年知足美術館、08・10・12・14・16年新潟絵屋、11・13年アートスペース88国立、14年新潟県立植物園などで個展。13年マレーシアArt Expo、14年より枝香庵のクリスマス(ギャラリー枝香庵)に参加。17年ギャラリー枝香庵で個展。

馬場まり子(ばば まりこ)◆1941年広島市生まれ。51年新潟市に転居。64年新潟大学英文学科卒業。73年より三条市に住む。菅木志雄とその作品に強い影響を受ける。86年最初の個展をかねこ・あーとGI(東京)で開催(小麦粉その他によるインスタレーション)。同画廊で92年まで個展を続け、以降秋山画廊、コバヤシ画廊、巷房、藍画廊(いずれも東京)で個展を続ける。2004・06年「新潟の作家100人展」(新潟県立万代島美術館)、19年「あたらしいかたち　新潟県人作家展2019」(新潟市新津美術館)に出品。求龍堂より16年『馬場まり子画集 ピンク幻想』、19年『馬場まり子素描集　フツウの束の間』が刊行される。

〈同時期開催〉

明るい色 馬場まり子展

併設　岡田清和・片桐翠展

2019 11/2(土)−12/22(日) 10:30-18:00

休館日:月曜日(11/4は開館)、11/5

観覧料:300円(券売は17:30まで)

NSG美術館

新潟市中央区西船見町5932-561 tel.025-378-3773

砂丘館

旧日本銀行新潟支店長役宅

指定管理者:新潟絵屋・新潟ビルサービス特定共同企業体

新潟市中央区西大畑町5218-1 tel.025-222-2676

新潟駅万代口より浜浦町線C2系統または観光循環バス乗車「西大畑坂上」下車徒歩1分

※砂丘館には駐車場がありません。また、周辺の道路は駐車禁止です。公共交通機関をご利用ください。※新潟市西堀地下駐車場をご利用の方は駐車券提示にて1時間分の無料券を差し上げます。

私たちは砂丘館の自主事業を応援しています。

雪国あられ株式会社　NSGグループ　ISHIKAWA　新潟ビルサービス　創業明治11年 丸屋本店　藤田金屬　WIND　郷土の文化に親しむ会